



8	秋	田	30								0
	横	手	30	1	1		1				3 (10.0)
	大	館	30								0 ( 0 )
	小	計	90	1	1		1				3 (3.3)
9	秋	田	30				2	6	2		11 (36.6)
	横	手	30				5	4			9 (30.0)
	大	館	30				4	5	4	2	18 (60.0)
	小	計	90				11	15	6	2	3
合	計	450	8	3		12	15	6	2	3	49 (10.9)

備 考 ①採血は生後2ヶ月～7ヶ月以内の豚  
 ②地域別と場，陽性数，陽性率(%)集計平均  
 秋田 14件(9.3%)， 横手 15(10%)， 大館 20(13.3%)

表2 豚の日脳H I 抗体測定成績表 (採血と場別)

と畜場別	月別検査数 及び陽性%	5 月	6 〃	7 〃	8 〃	9 〃	計
	県南横手	陽性 1 (3.3%)	30	30	30	30	30
中央秋田	陽性 2 (6.6%)	30	30	30	30	30	150
県北大館	2 (6.6%)	30	30	30	30	30	150
計	5 (5.5%)	90	90	90	90	90	150
		30	30	30	30	30	150
		1 (3.3%)	2 (6.6%)	0	3 (10.0%)	9 (30.0%)	15 (10.0%)
		2 (6.6%)	1 (3.3%)	0	0	11(36.6%)	14 (9.3%)
		2 (6.6%)	0	0	0	18(60.0%)	20 (13.3%)
		90	90	90	90	90	150
		5 (5.5%)	3 (3.3%)	0	3 (3.3%)	38(42.2%)	49 (10.9%)

### Ⅲ 地域別比較

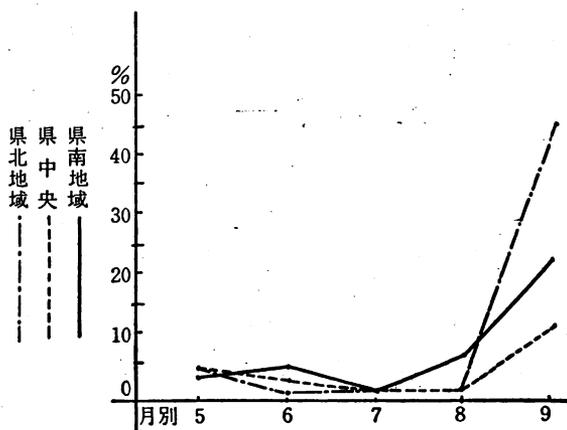
県南17件 (34.7%) 県北24件 (49%) で県北部地区が1番陽性率が高かった。又中央地区の琴丘町では4頭の内100%の陽性で、県北七日市でも4頭中4頭とも陽性であった。(表3, 4参照)

陽性豚を地域別に比較すると、県中央8件 (16.3%)

表3 陽性豚地域別比較表

地域別		月別陽性豚数					計
		5月	6月	7月	8月	9月	
県南地域	平鹿郡		1		1	9	11 (22.4%)
	横手市	1	1		1	2	5 (10.2%)
	仙北郡(角館)				1		1 (2.0%)
	平均	(2%)	(4.1%)	0	(6.2%)	(22.4%)	17 (34.7%)
県中央地域	秋田市	2					2 (4.1%)
	南秋田郡		1				1 (2.0%)
	山本郡(琴丘)					5	5 (10.2%)
	平均	(4.1%)	(2%)	0	0	(10.2%)	8 (16.3%)
県北地域	北秋田郡					4	4 (8.2%)
	大館市	2				12	14 (28.6%)
	鹿角郡					6	6 (12.3%)
	平均	(4.1%)	0		0		24 (49.0%)
計		5	3	0		38	49 (100%)

図 1 豚の月別 H I 抗体価の推移



#### IV むすび

1966年本県における豚の H I 抗体の測定は 5 月～8 月までは 10% 程度の低い陽性率で、9 月に入り各地域とも急激に抗体陽性の豚が増加し、30%～60% の上昇が見られた。幸い本年は日本脳炎患者の発生はなかったが、部落によっては 100% の感染豚のところが 2 ケ所もあり H I 抗体価も 5, 120 倍の上昇が見られた。

又蚊の発生も本県では 8 月が最盛期で、9 月の陽性豚の感染と一致した。

日脳の流行は単に豚の H I 抗体測定のみでは予測できるものでないだろうが、他の要因、例えば気象条件、コガタアカイエカ及びアカイエカなどの発生と日脳ウイルスの浸透度などの調査を行ない、疫学的に調査を進めて行く予定である。